

地球環境と産業化研究会（SGEIS）

「コミュニティと共生する再生可能エネルギー利用の基礎講座」実施報告書

概 要

テ ー マ：コミュニティと共生する再生可能エネルギー利用

内 容：これまでのエネルギー政策は、発電所などの立地する地域の負担のもとに推し進められてきました。地域における再エネ活用により、域内での多くのメリットとともに、日本全体での脱炭素化とエネルギー自給率の向上を進めることができ、地域再エネを地域でつくり、使うことを目指す取り組みが全国各地で進められています。

「地域再エネに取り組むために必要なことはなにか？」「具体的な取組を次々と全国へドミノ展開していくにはどうすればいいか？」について学び、あわせて脱炭素社会の実現に向けた活動案を高校生から発表いただき、その実現について参加者の皆様と考えました。

【講 義】再生可能エネルギー利用型新電力会社の活用

京都女子大学現代社会学部教授 諏訪亜紀 先生

【発 表】若者からの提言

①木質バイオマスの活用方法 神戸星城高等学校 戸坂心優、原田多葵

②再生可能エネルギーを組み合わせた複合型発電の実用化
神戸大学附属中等教育学校 長谷川淳之介

日 時：2023年7月28日（金） 13時30分～15時30分

13:30～13:35 主催者挨拶・進行について

13:35～14:25 講 義（講義40分、質疑応答10分）

14:25～14:55 発表①（発表10分、意見交換20分）

14:55～15:25 発表②（発表15分、意見交換15分）

15:25～15:30 事務局連絡・終了

場 所：オンライン形式（Zoomミーティングプロ）

主 催：地球環境と産業化研究会

参加者：16名、うち学生6名（24名、うち学生6名）（ ）の数字は参加申込者数

配布物

- 諏訪亜紀、『再生可能エネルギー利用型新電力会社の活用』
- 戸坂心優・原田多葵、『木質バイオマスの活用方法』
- 長谷川淳之介、『再生可能エネルギーを組み合わせた複合型発電の実用化』
- アンケート

内 容

●【講義】再生可能エネルギー利用型新電力会社の活用

①再生可能エネルギーと地域活性化について

・再生可能エネルギーは、単に気候変動・環境対策のみを目的にするだけではなく、地域に資金を還流させるメカニズム足り得る。

・地域新電力が利益還元（再生可能エネルギー資源の地産地消、電気料金の地域還元、地域課題の解決）を柱にすることが多いことから、地域活性化に繋がる可能性を秘めている。

②新電力選択と再エネについての調査から、

・新電力を選んでいる人はどんな人？

・なにがきっかけで、再エネ多めの新電力を選んだのか？

の問いについて、現段階では自ら情報を得ようとする人が多いことを知る。

質疑で3名の発言があった。「FIT電源が生み出す電気の調達費用が新電力（小売事業者）の経営に想定外の重荷になっていること」、「新電力が自営線で電力を供給すること」などについて議論された。

●【発表】若者からの提言

①木質バイオマスの活用方法

「森林はあるけど活用できていない!!」「家庭にバイオマスボイラの普及を!!!、2050年までに80～100万台を目指して」をテーマに、脱炭素社会に向けた活動案を発表いただいた。

・再生可能エネルギーを使って生活することが当たり前になる社会を目指し、日本に沢山資源のある木質バイオマスの活用を提案

・図書館、児童館、病院などの公共施設や、幼稚園・保育園・小中学校に木質バイオマスボイラ・ストーブを設置し、知る・学ぶ機会を増やす

・木質バイオマスを使うのが当たり前という社会になることで、一般家庭においても普及させる
木質バイオマスの利用促進について、発表者と参加者との間で意見交換が行われた。

②再生可能エネルギーを組み合わせた複合型発電の実用化

現在開発が続けられている再生可能エネルギーのうち、発電量・安全性・普及率の観点から選んだ2つの発電方法（太陽光発電・風力発電）について、それらを物理的に組み合わせた複合型発電（風力発電に用いられるブレードを、太陽光パネルに置き換えること）についての研究結果を発表いただいた。

・従来の発電技術を調査した上で組み合わせ方を提案する

- ・太陽光発電と風力発電について、年間発電量の計算シミュレーションを行う
- ・複合型発電による効果の有無を検証する

再生可能エネルギーの複合化について、発表者と参加者との間で意見交換が行われた。

以上(世話人 土井淳 記)